
静南高校バスケットボール部

鳴海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

静南高校バスケットボール部

【Nコード】

N6440Y

【作者名】

鳴海

【あらすじ】

静南高校で出会った朝倉隼人と村沢薫。終生のライバルと呼ばれ、日本バスケット界を大きく動かす2人が辿ったストーリーとは…。

ストーリーはオリジナルですが、若干スラムダンクと内容が被ります。

Episode 1 バスケットボール

静南高校

「うおっ、でけえ…」

「俺たちと同じ1年か？」

埼玉県の静南高校。ここで入学式を終え、1人の新入生が注目を集めていた。

朝倉隼人

中学まで北海道のバスケット部に在籍していたが、父親の仕事の都合により埼玉に引っ越してきた。

朝倉（バスケット部あるよな…）

朝倉が掲示板の前で立ち止まる。

“バスケット部、王者東王に完敗。またもや八強の壁破れず”

朝倉「おつ、バスケ部か。しかも八強って結構強いのか？」
村沢「強いよ」

背後から声。朝倉が振り返る。そこには短髪で端正な顔立ちをした長身の男が立っていた。

村沢「キャプテンでセンターを務める二階堂さん、精密機械のようなシューティングを誇る如月さん、スピードスターと呼ばれる金村さん。この3人は全国でもトップクラスの實力なんだけど、控えの選手層が薄いのがベスト8に甘んじている原因さ」

朝倉「ええっと…」

村沢「ああ、すまない。5組の村沢薫っていうんだ。もしかして埼玉出身じゃないのか？」

朝倉「2組の朝倉隼人だ。中学まで北海道にいたんだけど、親の都合で埼玉に来たんだ。村沢くんはどうしてこの学校に？」

村沢「薫でいいよ。二階堂さんは中学の頃の先輩でね、スカウトされて来たんだ。バスケ部に入るつもりなら、一緒に体育館に行こうぜ」

朝倉「ああ、分かった。これからよろしくな、薫。俺は隼人でいいよ」

村沢「分かった。よろしく、隼人」

Episode 2 入部

体育館に向かつて歩く朝倉と村沢。大男が並んで歩くので、反対方向から来る新人生は道をあけるように避けてしまう。

田中「隼人くん！」

背後から何者かが朝倉の肩を叩く。朝倉と村沢が振り向くと、ポニテールの女子生徒が立っていた。

田中「久しぶりね」

朝倉「あっ！お前、もしかして保奈美か！？」

田中「うん。小学校の卒業式以来ね」

村沢「隼人、この美人さんは？」

朝倉「ああ、俺の幼なじみの保奈美だ。そっか、確か中学から埼玉に行くって話だったな」

田中「ふふっ、入学式で隼人くんを見た時はびっくりしちゃった。けど昔と変わらず大きいからすぐ分かっちゃったよ」

村沢「村沢薫です。よろしく、田中さん」

田中「あつ、田中保奈美です。よろしくお願いします」

朝倉「悪いな、保奈美。俺たち、これから体育館に行くんだ。話はまた明日な」

田中「そう言うと思った。バスケ部に入部するんでしょ？じゃあ、私も一緒に行く」

朝倉「は？」

田中の言葉が理解できない朝倉。

田中「私、バスケ部のマネージャーになるから」

朝倉「…は？」

田中「ささっ、早く体育館に行こうよ。先輩たちに怒られちゃうよ」

朝倉「お、おい…！待てって…！」

朝倉と村沢は田中に押されて体育館に向かった。そして、3人は体育館にやって来た。もうほとんどの新入部員が集まっている。

朝倉「もう結構集まっているみたいだな」

村沢「ああ、いい雰囲気だ」

田中「ふふっ、楽しみだね」

そこにキャプテンの二階堂、副キャプテンの相川がやって来た。

二階堂「おう、二階堂。遅かったじゃないか。よく来てくれた」

相川「久しぶりだな、村沢」

村沢「キャプテン、相川さん、お久しぶりです。またお世話になります」

朝倉と田中は二階堂を見て、驚きを隠せない。

朝倉（で、でけえ…。2mはあるんじゃないか…）

二階堂「ん？お前も新入生か？身長は村沢よりあるが…。中学はどこ出身だ？」

朝倉「は、はい！北海道の花隈中学出身です！これからよろしくお願いします！」

二階堂「ん、期待してるぞ」

二階堂の視線が田中に移る。

二階堂「村沢、この娘は？」

村沢「朝倉の幼なじみです。マネージャー希望ですって」

田中「は、初めまして！田中保奈美です。よろしくお願いします」

二階堂「ああ、マネージャーなら大歓迎だ。よろしく、田中さん」

二階堂が手を叩く。

二階堂「よーーーーーっし！新入部員は全員並べ！」

一列に並ぶ新入部員たち。前には二階堂、相川が立っている。

二階堂「キャプテンの二階堂剛士だ。まずはじめに言うておく。ウチは本気で全国制覇を目指している。半端な者はいらん。しっかりついてきてくれ」

相川「副キャプテンの相川です。全国に行くには君たちの力が必要だ。これからよろしく頼むよ」

二階堂「じゃあまずはお前たちの力を見ておきたい。そこで俺たちレギュラーとお前たち新入部員でゲームをしようと思う。各自ストレッチをし、ゲームに出る者はビブスを受け取るように」

相川「田中さん、ここに名前書いてる人にビブスを配ってくれるかい？レギュラーは赤、新入部員は緑で」

田中「はい！」

各自ストレッチを終え、田中からビブスが配られる。

田中「はい、隼人くん、村沢くん」

村沢「ありがとう」

朝倉「え？俺、ゲームに出るの？」

田中「うん。頑張ってね」

朝倉「あ、ああ…」

村沢「まさかいきなり隼人と一緒にプレーできるとはね」

朝倉「そうだな。よろしく頼むな、薫」

同じゲームに出る他の1年生も集まった。

原口「僕は原口亮介。これからよろしく頼むよ」

大栄「大栄圭一です。よろしく」

若菜「若菜伊織。これから3年間、頑張ろうぜ」

朝倉「あつ、俺は朝倉隼人。やるからには絶対勝とうな」

村沢「村沢薫です。よろしく」

大栄「知ってるよ、有名人」

若菜「まさか中学MVPの人間と同じ学校になるとはな」

朝倉「ちゅ、中学MVP!？」

朝倉が村沢に目を向ける。微笑む村沢。

朝倉（中学MVP…。そんなすごい奴だったのか…）

ピーーーーー！

「始めます!」

両軍メンバーが顔を合わせる。二階堂がセンターサークルに入った。

村沢「隼人、君がいきなよ」

朝倉「え?でも…」

村沢「いいからいいから。君は俺よりでかいし、実力を見てみたいんだ」

朝倉「…分かった」

朝倉もセンターサークルに入る。他の8人がサークルを囲った。

二階堂「朝倉、遠慮はいらん。全力でかかって来い」
朝倉「…はい！」

Episode 3 激突！レギュラーVS新入生

審判がボールをトス。二階堂と朝倉が跳んだ。

朝倉「おっ……！」

二階堂「む！？」

村沢「……………！！！」

周囲が驚く。

「おおおおお！」

「高……………い！」

バシイ！

ジャンプボールは二階堂が僅かに競り勝ち、如月がボールを拾った。
レギュラーチームのボールで試合開始。

如月「あの1年、なんてジャンプしやがる……」

金村「二階堂さんとはば互角かよ……」

二階堂（朝倉隼人か……）

赤ビブス

- 4 ・二階堂剛士（C） / 3年 / 197 c m
- 5 ・相川修一（SF） / 3年 / 177 c m
- 6 ・金村徹平（PG） / 2年 / 167 c m
- 7 ・如月慧（SG） / 3年 / 184 c m
- 8 ・塚間健（PF） / 3年 / 184 c m

緑ビブス

- 4 ・村沢薫（PF） / 1年 / 188 c m
- 5 ・大栄圭一（PG） / 1年 / 170 c m
- 6 ・原口亮介（SG） / 1年 / 176 c m
- 7 ・若菜伊織（SF） / 1年 / 178 c m
- 8 ・朝倉隼人（C） / 1年 / 190 c m

ボールは如月から金村へ。村沢が朝倉に声をかける。

村沢「驚いたよ。すごいジャンプ力だな」

朝倉「いや、大したことないよ。それよりディフェンスだぞ」

村沢「ああ」

（隼人、彼となら本当に…）

金村がゆっくりとボールをついている。目の前に立つのは大栄。

大栄（金村さん…。全国でもトップクラスのPG…）

金村「行くぜ、1年」

金村、カットイン！大栄をあっさり抜いた。

大栄（は、速すぎ…！）

気がついたらゴール下。朝倉が前に出てくる。

スッ

金村、フリーの二階堂へパス。二階堂は冷静にシュートを放つ。

バス！

「おおおお！金村！」

「キャプテン！ナイッシュ！」

バチン！

静かに手を叩く二階堂と金村。そして、ディフェンスに入る。

二階堂「よーーーーっし！ディフェンス！」
「おう！ー！」

朝倉がボールを拾う。

大栄「ご、ごめん…」

村沢「ドンマイ。次はオフェンスだ」

1年チームの攻撃。大栄がボールを運ぶ。

金村「来いや、1年」

大栄（朝倉でいくか？いや、まずはやっぱり…）

大栄、ハイポスト付近へパス。ボールは村沢に渡った。

「村沢！」

「村沢だ！」

村沢がボールを持った瞬間、レギュラーチームの目つきが変わった。

如月（村沢…）

二階堂（成長したところを見せてみる、村沢）

村沢、ドライブ！こちらにもあっさり塚間を抜いた。

塚間（え…！？）

朝倉「……………！！！」

相川がヘルプに入る。村沢はこれも抜いてシュートを放った。

ザシュ！

「村沢！いきなり決めたぞ！」

「相川さんと塚間さんを相手に！」

如月「二階堂、お前の言ってた通りだ。本物だな、奴は」

二階堂「ふつ、まだまだ。あいつはあんなもんじゃないぞ？」

朝倉は村沢のプレーを見て鳥肌が立っていた。

朝倉（薫…。これが中学MVPの実力…。こいつと3年間、一緒の学校でプレーできるなんて…！）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6440y/>

静南高校バスケットボール部

2011年11月21日16時18分発行